

4. 志願者・在学者・卒業者の状況

4.1 アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

(1) 学部のアドミッション・ポリシー

■ 進学の目的が明確な学生

学びたい教員がいる、実践したい研究テーマがある、学びたい技術領域がある、取り組んでみたい課外活動がある、将来の職業観が明確である、等々の自分の目標や夢が明確な、目的志向型の学生。

■ 本学の教育システムを十分に活用できる学生

目的指向型カリキュラムの作成などの自主的な取り組みを求める本学の教育システムの特徴や仕組みを理解し効果的に取り組むことができ、施設や設備を活用し、自らの付加価値を高めて実社会で活躍することを希望する学生。

■ 技術者に求められる基礎学力を身につけている学生

論理的な思考に必要な理数系の素養を身につけた学生。

(2) 大学院のアドミッション・ポリシー

大学院工学研究科の教育・研究に関する基本理念は、人間力豊かで「自ら考え行動する高度な専門技術者並びに研究者」を育成することであり、入学者受け入れ方針は次の通りです。

- ①大学院への進学目的が明確な学生
- ②大学院の教育研究目標や教育研究システムを十分理解し活用できる学生
- ③各専門分野における基礎的な能力を身に付けている学生

大学院心理科学研究科修士課程臨床心理学専攻の教育・研究に関する基本理念は、人間力豊かで「臨床実践力の基礎を身につけ、臨床心理学的諸現象を科学的に捉える力を持った社会に役立つ心理臨床家」を育成することであり、入学者受け入れ方針は次の通りです。

- ①大学院への進学目的が明確な学生
- ②大学院の教育・研究目標を理解し、教育・研究システムを活用できる学生
- ③心理学の基礎的な能力を身に付けている学生
- ④専攻の教育理念を理解し、援助職としての資質を有している学生
- ⑤専攻修了後、臨床心理士をはじめ社会で心理臨床家として活動する意志の強固な学生

イノベーションマネジメント研究科の教育・研究に関する基本理念は、「教育付加価値日本一」を目指す金沢工業大学のヴィジョンに則り多様な人材への教育機会を提供する。本研究科では、人間力豊かで「強固かつ持続可能なイノベーションを実現するために、知的財産と企業経営を意識した高度の専門職業人」を養成することであり、それらに基づく入学者受け入れ方針は次の通りとする。

- ①大学院への学習意欲が強固であって、かつ進学目的が明確な者
- ②大学院の教育研究を行ううえで必要な基本的能力かつ学力を身につけている者
- ③大学院の教育理念を理解し、教育研究目標や教育研究システムを十分理解し活用できる者
- ④大学院修了後、社会においてイノベーションを実現するマネジメント人材として活動する強い意思を有する者

4.2 志願者・入学者の状況

(1) 学部の志願者・入学者状況

学部の志願者、入学者の推移を表4-1、図4-1にそれぞれ示します。図4-1の青色の棒グラフは志願者数、水色の棒グラフは入学者数、黒色の折れ線グラフは18歳人口の推移を表します。入学定員に対する入学者の充足率は、図4-2に示すように110%~129%の間で推移しています。

表4-1 志願者数・入学者数の推移（学部）

年度	志願者数(人)	入学者数(人)	18歳人口(万人)
H24	7,634	1,794	119
H25	10,302	1,909	123
H26	11,061	1,646	118
H27	10,593	1,701	120
H28	9,101	1,623	119

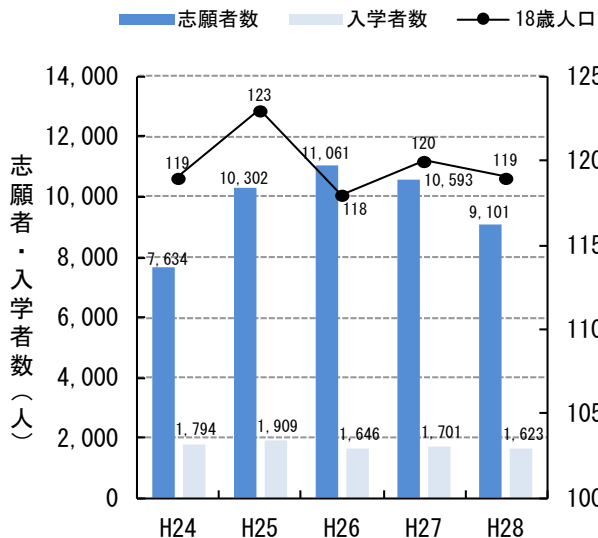


図4-1 志願者数・入学者数の推移（学部）

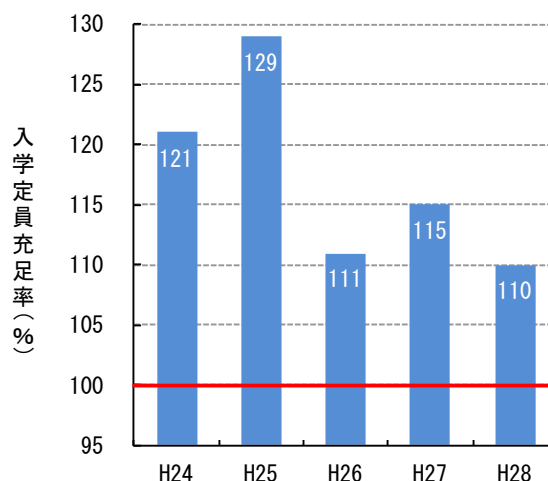
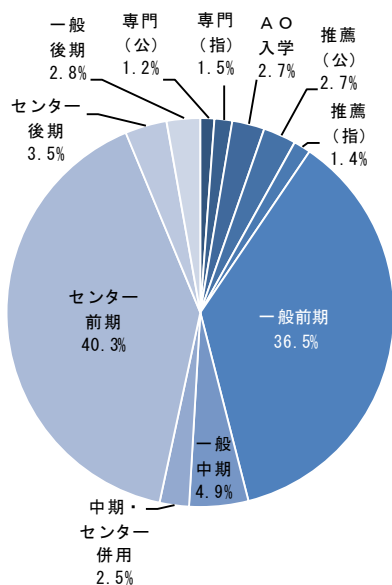
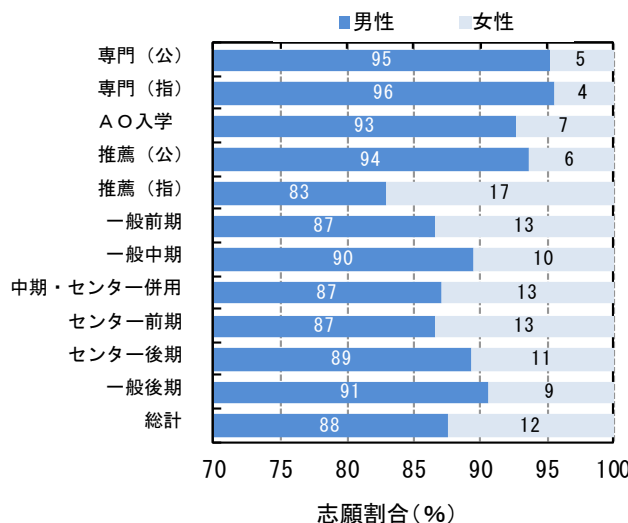


図4-2 入学定員充足率の推移（学部）
（赤色ラインは入学定員充足率100%を示す）

平成28年度入試の区分ごとの割合を図4-3(a)に示し、図4-3(b)に区分ごとの男女比を示します。図4-3(a)より、一般試験で受験する割合は志願者全体の46.7%、センター試験で受験する割合は43.8%、推薦試験等で受験する割合は9.5%でした。また、図4-3(b)は、試験区分毎の男女比を示します。



(a) 入試区分*



(b) 男女比

図4-3 入試区分ごとの志願者

入試区分*

目的志向型入学(AO入学)	将来の夢や目標を持った目的志向型の学生のための入試制度
専門高校特別選抜	工業・商業・農業等の専門高校及び専門課程の学生が対象の入試制度
推薦試験	学校長が推薦する高校生を対象とした入試制度
一般試験(前期・中期・後期)	本学のメイン試験 学部によって試験科目が異なる入試制度
中期・センター併用	個別学力試験と大学入試センター試験の得点の合計点で選考する入試制度
センター試験利用(前期・後期)	大学入試センター試験の得点を利用する入試制度

なお、学部・学科毎の入学定員、平成28年度の入試結果と入学者状況の詳細は、次のWebサイトで紹介しています。

学部・学科別の入学定員：http://www.kanazawa-it.ac.jp/nyusi/boshu_jinin.html

平成28年度入試結果：<http://www.kanazawa-it.ac.jp/nyusi/result.html>

平成28年度入学者状況：http://www.kanazawa-it.ac.jp/nyusi/result28_detail.html#anchor01

(2) 大学院の志願者・入学者状況

大学院修士課程及び博士前期課程の志願者状況と入学者状況を図4-4に示します。

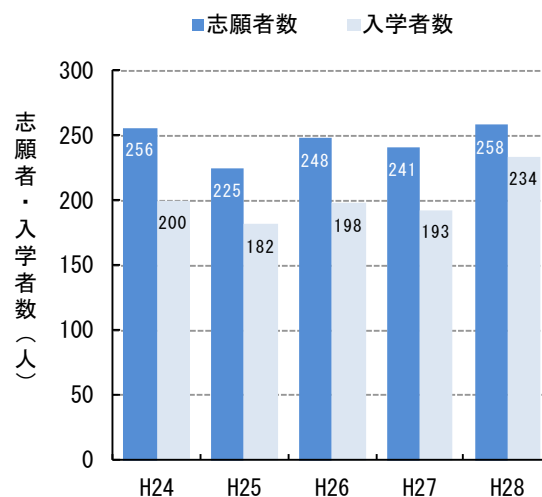


図4-4 志願者数・入学者数の推移(大学院)

4.3 在学者の状況

(1) 入学定員、収容定員と在学者数

学部の入学・収容定員と在学者数の推移を表4-2と図4-5にそれぞれ示します。なお、図4-5の黒色の折れ線グラフは、学部の1年次から4年次までの収容定員に対する充足率を示します。

表4-2 定員充足率の推移

年度	入学定員(人)	収容定員(人)	在学者数(人)	定員充足率(%)
H24	1,480	5,920	6,702	113.2
H25	1,480	5,920	7,043	119.0
H26	1,480	5,920	6,909	116.7
H27	1,480	5,920	6,929	117.0
H28	1,480	5,920	6,829	115.4

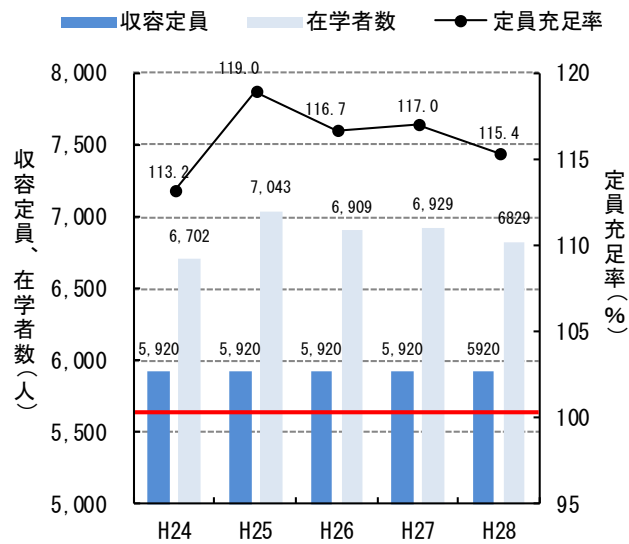


図4-5 定員充足率の推移

(赤色ラインは収容定員充足率100%を示す)

平成 28 年度の学部・学科別の在学者数を表 4-3 に示します。

表 4-3 学科別在学者数（平成 28 年 5 月 1 日現在）

学部	学科	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	合計
工学部	機械工学科	247	237	236	209	929
	航空システム工学科	76	67	60	69	272
	ロボティクス学科	120	134	122	121	497
	電気電子工学科	202	205	214	210	831
	電子情報通信工学科	43	39	68	71	221
	情報工学科	260	226	236	229	951
	情報通信工学科※（～H23）	-	-	-	1	1
	小計	948	908	936	910	3,702
情報フロンティア学部	メディア情報学科	142	152	138	157	589
	経営情報学科	42	65	74	65	246
	心理情報学科	40	66	60	52	218
	小計	224	283	272	274	1,053
環境・建築学部	建築デザイン学科	139	150	135	120	544
	建築学科	127	140	125	133	525
	環境土木工学科	92	84	73	65	314
	建築都市デザイン学科※（～H23）	-	1	-	-	1
	小計	358	375	333	318	1,384
バイオ・化学部	応用化学科	74	79	62	89	304
	応用バイオ学科	68	100	102	97	367
	小計	142	179	164	186	671
情報学部※（～H23）	メディア情報学科※	-	-	-	2	2
	心理情報学科※	-	-	-	2	2
	情報経営学科※	-	-	-	2	2
	情報工学科※	-	-	2	11	13
	小計	0	0	2	17	19
合計		1,672	1,745	1,707	1,705	6,829

単位：人

※ 学部改組に伴い、募集停止又は名称変更を行った学部・学科

次に、大学院の専攻別在学者数を表 4-4 に示します。

表 4-4 大学院 専攻別在学者数（平成 28 年 5 月 1 日現在）

研究科	専攻	博士前期(修士)課程		博士後期課程			合計
		1 年次	2 年次	1 年次	2 年次	3 年次	
工学研究科	機械工学専攻	54	66	1	1	2	124
	環境土木工学専攻	6	7	0	2	0	15
	情報工学専攻	6	10	0	0	1	17
	電気電子工学専攻	59	34	0	2	1	96
	システム設計工学専攻	13	13	0	2	2	30
	バイオ・化学専攻	12	17	0	0	1	30
	建築学専攻	24	25	1	0	1	51
	高信頼ものづくり専攻	5	0	4	0	2	11
	ビジネスアーキテクト専攻	11	3	-	-	-	14
	知的創造システム専攻	17	-	-	-	-	17
	小計		207	175	6	7	10
心理科学研究科	臨床心理学専攻	8	2	-	-	-	10
	小計	8	2	0	0	0	10
イノベーションマネジメント研究科	イノベーションマネジメント専攻	54	-	-	-	-	54
	小計	54	0	0	0	0	54
合計		269	177	6	7	10	469

単位：人

社会人学生は、大学院に 101 名在籍しており、その内訳を表 4-5 に示します。また、今年度は専攻科には在籍者はありません。

表 4-5 大学院 社会人学生数（平成 28 年 5 月 1 日現在）

研究科	専攻	博士前期(修士)課程	博士後期課程
工学研究科	機械工学専攻	0	3
	環境土木工学専攻	1	1
	情報工学専攻	0	1
	電気電子工学専攻	1	2
	システム設計工学専攻	0	2
	バイオ・化学専攻	0	1
	建築学専攻	0	0
	高信頼ものづくり専攻	0	6
	ビジネスアーキテクト専攻	11	-
	知的創造システム専攻	16	-
	心理科学研究科	臨床心理学専攻	2
イノベーションマネジメント研究科	イノベーションマネジメント専攻	54	-
合計		85	16

単位：人

(2) 退学・除籍・留年者

平成27年度は、学部の退学者271名、除籍者14名、留年者550名、大学院の退学者14名、除籍者1名、最低在学年限超過学生数55名でした。学部4年間で卒業した学生の割合の推移を図4-6に示し、留年・退学・休学・除籍した学部学生の割合を図4-7に示します。4年間で卒業する割合は70～80%程度で推移しています。なお、図4-7は平成27年5月1日現在の在学者数で、平成28年3月31日現在の留年・退学・休学・除籍した学生数を除いたものです。

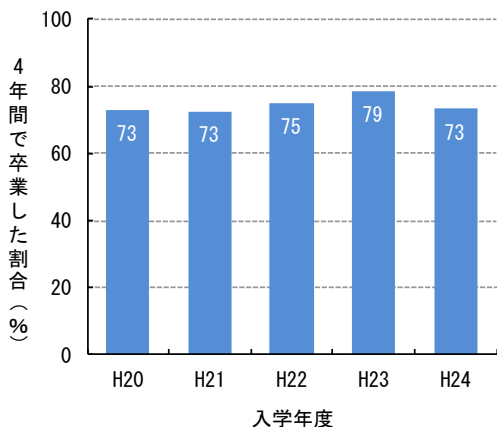


図4-6 4年間で卒業した学生割合の推移

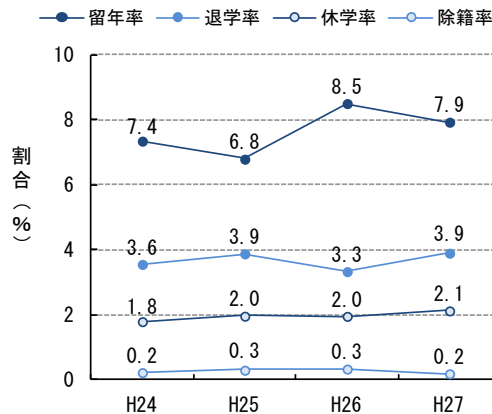


図4-7 留年・退学・休学・除籍率の推移

(3) 学長褒賞

金沢工業大学の教育の象徴的なものに「褒めの教育」があり、学長褒賞という名称で制度化しています。その褒賞規定は、成績優秀者、学業に取り組む姿勢が良い者、各種コンテスト・部活等の大会等で優秀な成果を収めた者、学生として模範的行為をした者等12種類から成っています。

この制度は、教職員が学生の長所を発見しようとする意識を高めることで、学生は「先生方は自分を見ている、認めてくれている」という意識につながり、また、学生は褒められることで、素直に喜び、勉学、研鑽をするようになります。本学が特に重視している「人間形成」における最大のテーマは、学生の自主性、自発性をいかに引き出すかであるため、この制度は一定の成果があると認識しています。

図4-8に平成27年度に受賞した学生の学年別の受賞者数とその割合を示し、図4-9には受賞理由の割合を示します。近年は、授業等の正課の活動結果に加えて、授業外の課外の教育プロジェクトでも評価する機会を増やしています。なお、大学での学業意欲を促進するための制度であることから、1・2年次の受賞人数が多い傾向にあります。

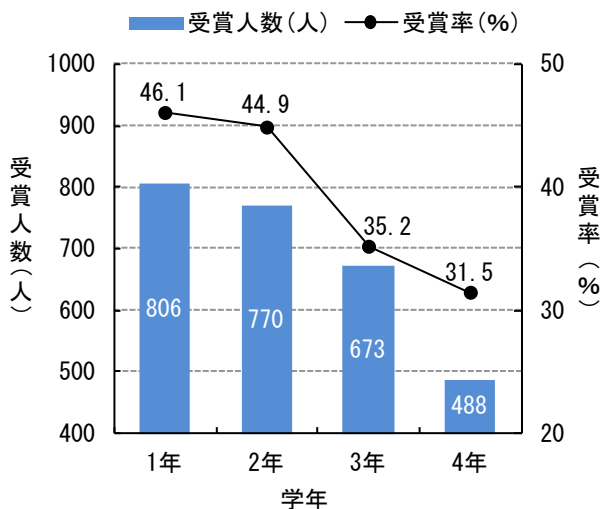


図4-8 平成27年度学長褒賞受賞人数・受賞率

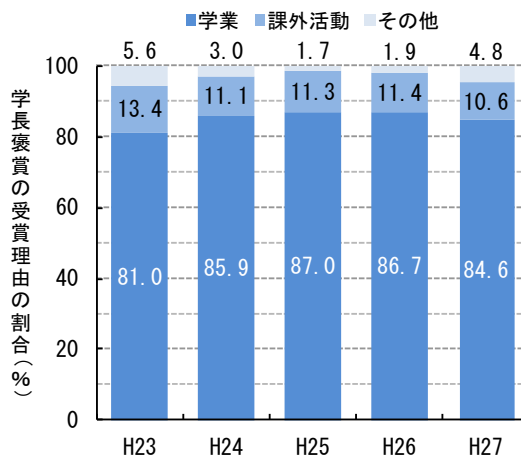


図4-9 学長褒賞受賞理由

4.4 特別奨学生制度

(1) 特別奨学生制度とオナーズプログラム

本学の特別奨学生制度は、平成22年度入学生からはじめた制度であり今年度で7年目となります。この制度は、単に奨学金を給付するものではなくリーダーとなる人材の育成を目的としているため、名称も「リーダーシップアワード生制度」としています。そのため、奨学生全員に「KITオナーズプログラム」の参加を義務付け、加えて少なくとも各学期に1回、リーダーとなるための特別講座の受講を求めています。リーダーシップアワード生には、スカラーシップ・フェローとスカラーシップ・メンバーの2種類があり、それぞれ、表4-7に示す奨学金を給付しています。

表4-7 給付金の金額

		1年次	2年次	3年次	4年次
リーダーシップ アワード生	スカラーシップ・フェロー※	725,200円	979,200円	979,200円	979,200円
	スカラーシップ・メンバー	250,000円	250,000円	250,000円	250,000円

※ 国立大学授業料の標準額との差額が給付金額となるため、変動することがある。

KITオナーズプログラムは、本学の教育目標である「自ら考え行動する技術者」に向けて、それを実践する課外の教育プログラムで、自ら目標を設定し、それを達成するために活動する自己目標達成プログラムです。このプログラムは、大きく分類して次の5種類があり、様々なテーマのプログラムを運営しています。

- ① 各学部・学科・課程等が実施するプログラム
- ② 専門的な技術要素に対して、問題を発見し解決に向け活動する夢考房プロジェクトプログラム
- ③ 企業をはじめとした産業界と連携した産学連携プログラムと金沢市や野々市市をはじめとした地域と連携した地域連携プログラム
- ④ 学生の団体である学友会に所属する部活動などのプログラム
- ⑤ 各教育支援センターが実施するプログラム

特別奨学生制度の詳細は、<http://www.kanazawa-it.ac.jp/nyusi/honor01.html> で紹介しています。

(2) 特別奨学生の状況

図4-10に特別奨学生の人数を年度別で示します。平成27年度は、115名の募集に対して104名を選出しました。その内訳は、スカラーシップ・フェロー51名、スカラーシップ・メンバー70名となっています。男女比については、男子学生が99名(81.8%)で女子学生が22名(18.2%)でした(図4-11参照)。また、工業高校や商業高校等の専門高校出身者は17名(14.0%)でした。

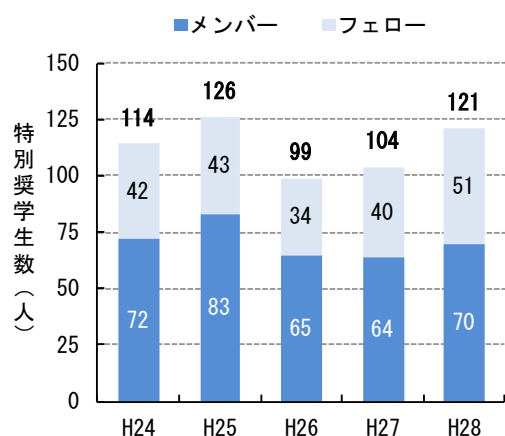


図4-10 特別奨学生の人数(年度別入学生)

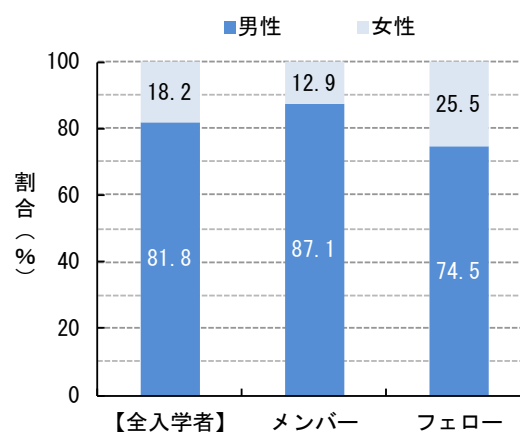


図4-11 特別奨学生の男女比(平成28年度)

4.5 進路状況

(1) 就職支援

本学では、授業内で実施しているキャリア教育に加え、就職支援策として「企業情報の整備」「自己分析法のアドバイス」「学内合同企業説明会の開催」「就職支援バスの運行」「キャリアカウンセラーによる個別面談」「模擬面接ウィーク」等を実施しています。

① 就職活動支援バス

就職支援バスは、これまでの東京、大阪、名古屋行きに加え、平成27年度からは京都、新潟、山形・仙台にも増発すると共に運用期間も延長し、採用活動時期の変更にも対応しています（図4-12参照）。

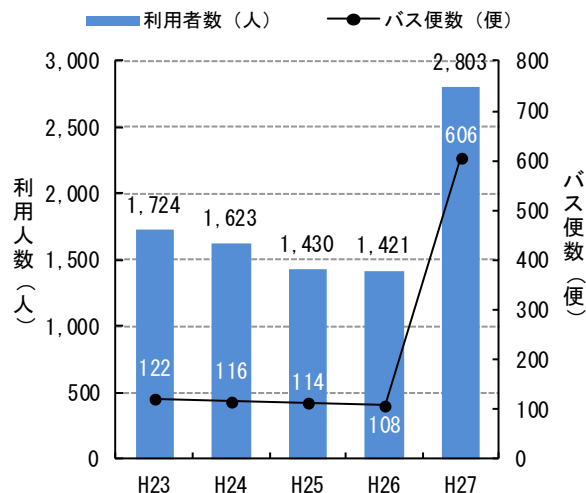


図4-12 就職支援バス利用者数の推移

② 進路相談

平成26年度は、景気回復の影響により早期に進路が決定する学生が増えたことで、面談件数も減少しましたが、平成27年度は、採用活動時期の変更により、就職活動が長期化したため、面談件数が増加しています。図4-13にキャリアカウンセラーによる個別面談の件数を示し、図4-14にその面談内容の内訳を示します。

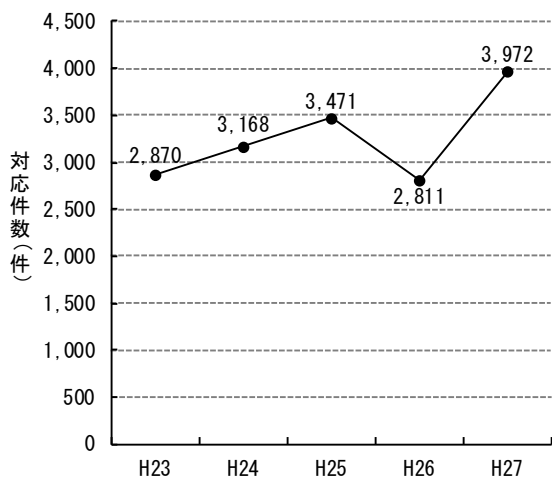


図4-13 面談対応件数の推移

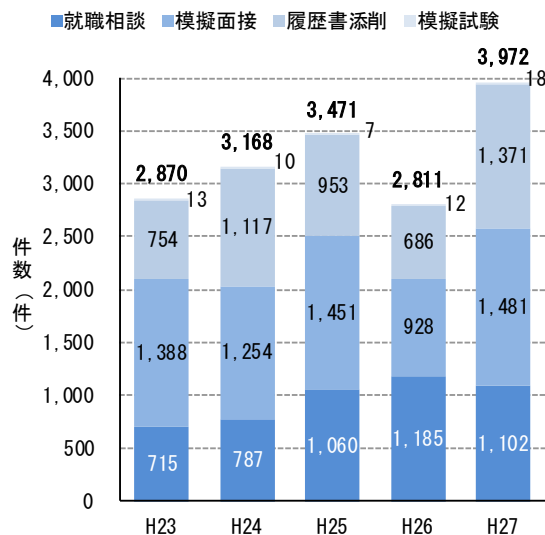


図4-14 面談内容の推移 (年度別)

(2) 学部卒業生

① 卒業生

学部生の進路状況を表4-8に示します。

表4-8 学部生の進路状況

年度	就職者数	進学者数	自営数	自力開拓 (公務員浪人等)	就職 未内定者数	卒業生数
H23	1,143	192	2	42	41	1,420
H24	1,059	186	2	55	35	1,337
H25	1,242	196	0	49	15	1,502
H26	1,219	201	2	29	6	1,457
H27	1,211	211	3	39	4	1,468

単位：人

② 就職内定率

リーマンショックの影響を受け、平成 21 年度には 95% 台に落ち込んだ就職内定率も、年々上昇傾向にあります (図 4-15 参照)。また、内定先の企業規模を図 4-16 に示します。

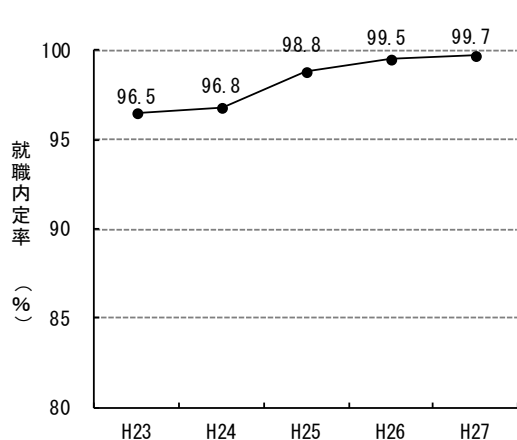


図 4-15 就職内定率の推移

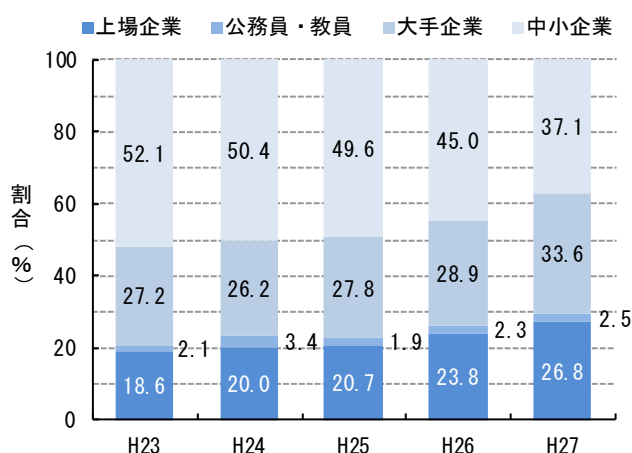


図 4-16 内定先の企業規模

③ 大学院進学者数

学部卒業後、大学院へ進学する学生数とその進学率を図 4-17 に示します。

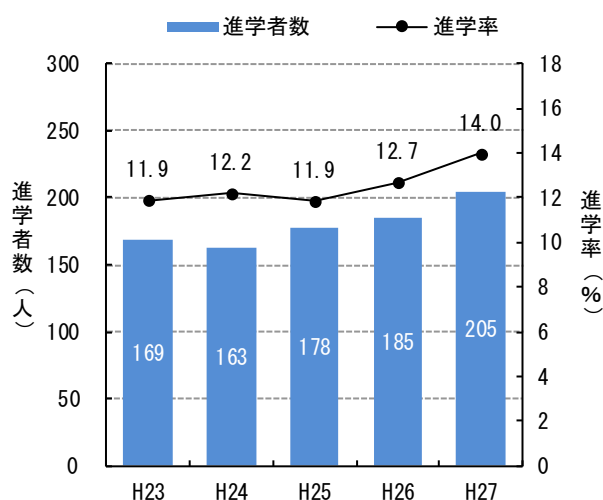


図 4-17 大学院進学者数の推移

(3) 大学院

① 修了者

大学院生の進路状況を表 4-9 に示します。

表 4-9 大学院生の進路状況

年度	就職者数	進学者数	自営	自力開拓 (公務員浪人等)	就職未内定者数	修了者数
H23	243	3	2	15	3	266
H24	206	0	0	9	4	219
H25	145	2	0	2	0	149
H26	133	5	1	4	0	143
H27	150	1	0	1	0	152

単位：人

② 就職内定率

大学院（工学研究科）修了者の就職内定率を図 4-18 参照に示します。また、内定先の企業規模を図 4-19 に示します。

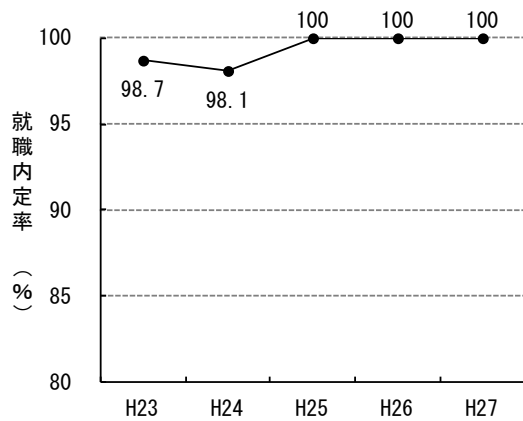


図 4-18 就職内定率の推移

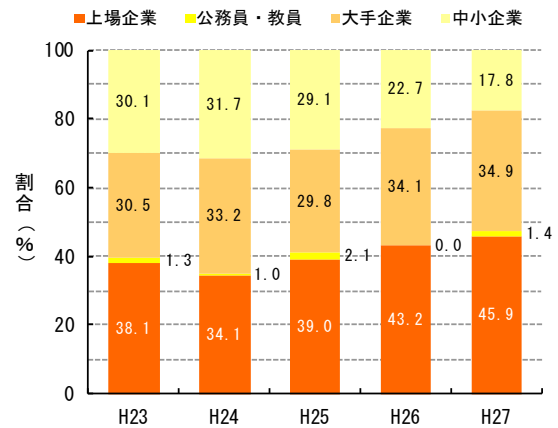


図 4-19 内定先の企業規模

進路に関する詳細は、<http://www.kanazawa-it.ac.jp/shushoku/> で紹介しています。